

1 主題名 温かい心を大切に B(7) 親切、思いやり

2 教材名 一さつのおくりもの

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

B(7)「親切、思いやり」に関する内容項目は、小学校学習指導要領において「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」と示されている。第3学年においては、学校生活を中心として友達同士の交流が活発になるとともに、活動範囲も広がってくる。様々な人々との関わりが次第に増えていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになるが、ともすると他の人々の感じ方や考え方が自分たちの感じ方や考え方と同様であると思い込みがちになることもこの時期の特徴と言われている。相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、昨年度まで2学級に分かれていたが、今年度から37人1学級になった。年度初めは、新しい環境に適応できず不安を訴える児童や、友達との関係づくりに苦手意識がある児童、友達と言い争いになり児童同士での問題解決が難しい児童がいた。7月頃から、少しずつ友達を思いやる言動や行動が見られ、落ち着いて生活ができるようになってきた。

(実態調査アンケート 令和4年7月8日37名)

質問「相手のことを思いやり、進んで親切にしようとしていますか。」			
よくしている	少ししている	あまりしていない	していない
23人	12人	0人	2人

実態調査アンケートによると、「相手のことを思いやり、進んで親切にしようとしていますか。」という質問に対して、約9割以上の児童が「よくしている」もしくは「少ししている」と回答している。児童の多くは普段の生活の中において「思いやりや親切」ということを意識していることがわかる。しかし、親しい友達には思いやりや親切を意識して生活していても、意見の合わない友達や異学年の友達に対しては自己中心的な言動や行動をとっている場面を見かける。また、2名の児童は「していない」と回答していた。相手に対する思いやりの心をもつ大切さについて、十分に育っていないと考える。

(3) 教材について

本教材は、主人公のクマタが、大水害にあった山向こうの村の子どもたちに自分のお気に入りの絵本を送る話である。最も大切にしている本だけはあげられないと思っていたクマタが、大水害にあった子どもたちを見舞うため、悩みに悩んでこの本を送ることに決める。その後、本を受け取った子どもからお礼の手紙が届き、嬉しさを覚えたクマタがまた相手に返事を出すという内容である。そこで、相手の置かれている状況を考えて行動した主人公の温かい心や、気持ちの推移を感じ取ることで、「親切」について考えを深め、相手に対し思いやりをもって生活しようとする心情を育てたい。

4 本時の学習

(1) ねらい

相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

(2) 準備・資料

- ・プロジェクター ・スクリーン ・挿絵等掲示物 ・ワークシート
- ・教科書「東京書籍 新しい道徳」

(3) 学習指導課程

☆根拠や理由を明確にして自分の思いや考えを表現するための手立て

◇ICT機器の効果的活用

	主な活動と発問	予想される児童の反応	支援の手立てと評価
導入	1 「親切」の捉え方を確かめる。 ○「親切な人」とは、どんな人でしょうか。	・友達に親切にしている人。 ・困っている人を助けられる人。 ・手伝いをよくする人。 ・お年寄りにやさしい人。	☆根拠や理由が書き込めるワークシートを用意しておく。 ◇ワークシートをプロジェクターで拡大して映し、進度が分かりやすくしておく。 ・児童の「親切な人」の発言を、板書して記録を残しておく。
	2 本時の授業で学習することをつかむ。		・本時のねらいを明確に話す。

展 開	3 教材「一さつのおくりもの」を途中まで読み、自分の考えをもつ。 ○クマタは、この絵本のどんなところが気に入っているのでしょうか。 ◎自分だったら、お気に入りの本をあげますか。あげませんか。 4 常総市の鬼怒川決壊時の映像や情報を知り、水害にあった人々の気持ちについておさえる。 ○水害について知って、どう思いましたか。 5 教材「一さつのおくりもの」の続きを読み、自分の考えを深める。 ○「おへんじ、書いたよう。」と、手紙を高く振ったときのクマタは、どんな気持ちでしょうか。	・キツネの子はえらい。 ・自分にはできないことができてすごい。 ・仲良しの子の気持ちを考えられるキツネが好き。 ・お気に入りの本が読めなくなるのはいやだな。 ・あげた方がいいかもしれないけれど、お気に入りの本がなくなるのはさみしいな。 ・お気に入りの本をあげた方が、水害にあった子が喜んでくれるかな。 ・家や大切な物がなくなってしまっかわいそう。 ・辛い気持ちになる。 ・何か手伝ってあげたい。 ・自分でできることをしたい。 ・募金や寄付をしたい。 ・喜んでもらえてよかった。 ・本をあげてよかったな。 ・手助けができて嬉しい。	・教科書 P. 58～P. 60 の2行目まで読み、ワークシートに記入させる。 ・お気に入りの本をあげたいけど、あげたくないと思っている児童の気持ちを受け止める。 ・グループで話し合いの時間を取り、親切についての考えが深まるようにする。 ◇常総市の鬼怒川決壊時の映像を流す。事前に、気分が悪くなったら担任に言うよう伝える。 ・水害にあったことで、どんな生活をしていたのか当時の実態を伝える。 ・自分にできることについて発言がないときは、補助発問をし、考えが深められるようにする。 ・P. 60 の3行目～最後まで読む。 ・自分の気持ちと行為が相手に届いたことを喜ぶクマタの気持ちをおさえる。 ☆どうして親切にすることがよいのか問うことで、根拠や理由が浮きぼりになるようにする。 ・ワークシートに記述させる。 ・相手のことを考えた思いやりは、お互いの気持ちをつなぎ、どちらも嬉しい気持ちになることに気付けるようにする。
終 末	4 自分の生活を振り返る。 ○「親切な人」とはどんな人でしょう。また、これからは、どんなことをしようと思いますか。	・けがをしている友達がいたら、保健室につれて行きたい人 ・困っている人がいたら、すぐに助けられる人。 ・災害が起きたときに、寄付や募金をして、困っている人を勇気づけたい。	(評) 自己を見つめ言動を振り返り、相手のことを思いやり、進んで親切にしようと考えている。(発表・ワークシート) ・ワークシートに記述させる。 ・数人に感想を発表させ、授業のまとめを行う。